



令和5年度特別展 児島なか生誕200年記念
あ こう だ ん つ う

赤穂 緞通

令和5年11月18日(土)～令和6年1月23日(火)

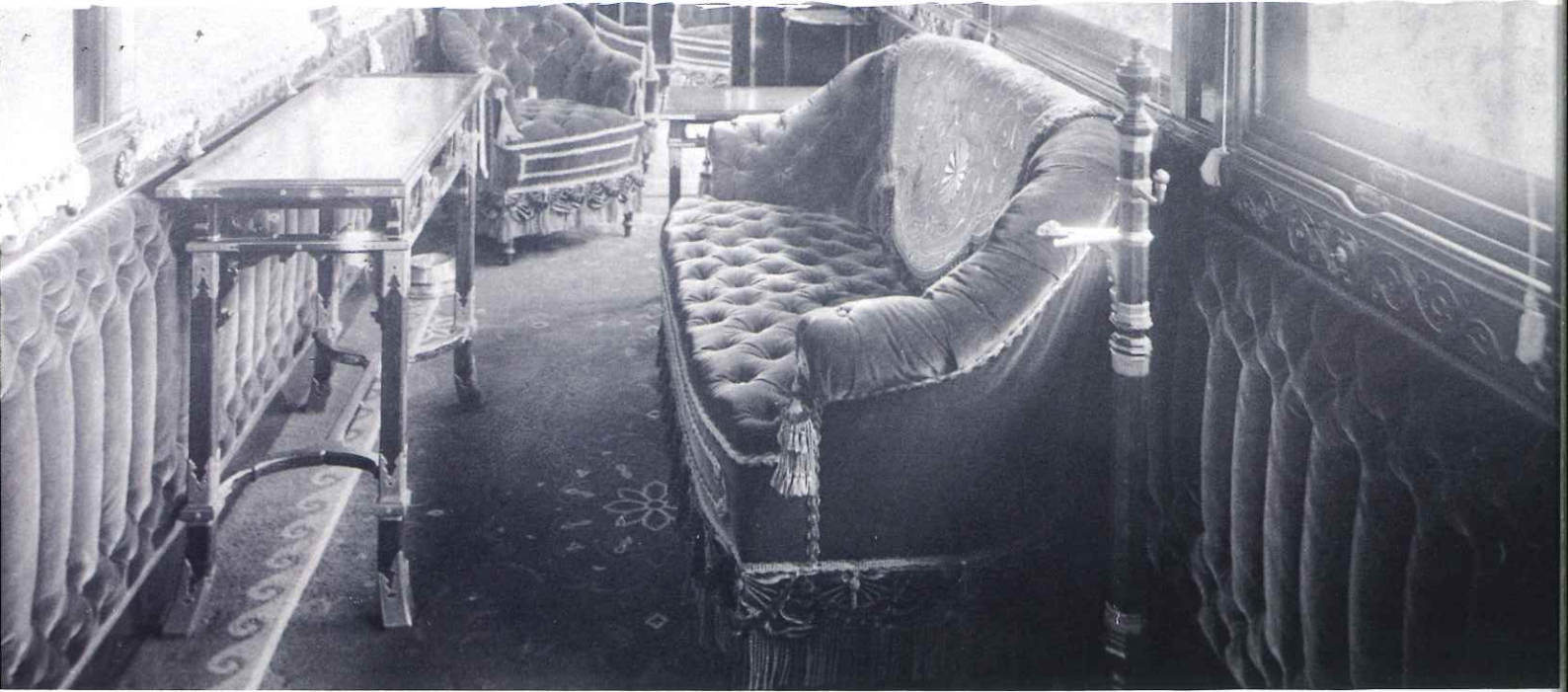
◆主催 赤穂市立歴史博物館・神戸新聞社 ◆開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
◆休館日 毎週水曜日・12月28～1月1日・4日(1月2・3日は臨時開館) ◆入館料 大人(高校生以上)300円 小中学生150円(ココソカード利用可)
団体は30人以上2割引・100人以上4割引 障がい者割引等あり

赤穂市立歴史博物館

〒678-0235 兵庫県赤穂市上飯屋916-1
TEL 0791-43-4600 FAX 0791-45-3501

写真 上 赤穂緞通 唐花に蔓草文(御察文・6畳敷・部分) 大正～昭和初期 当館蔵
前期展示:11月18～12月19日

下 赤穂緞通(御察文)が敷かれた明治天皇の御料車・御座所古写真(部分) 鉄道博物館提供



児島なか生誕 200 年記念 赤穂緞通展

赤穂緞通は中村（現在の赤穂市中広）に住む児島なかが30年近い歳月を費やして独自に開発し、明治7年（1874）に商品化に成功した絨毯です。佐賀の鍋島緞通・大阪の堺緞通と並んで日本三緞通とも称されています。木綿の1畳敷を基本とし、京阪神を中心に流通しました。明治期には各種展覧会に出品、品質で高い評価を受け天皇・皇后の御料車の敷物にも採用されました。生産量は、大正元年（1912）の3,200畳をピークとし、昭和13年（1938）まで市域の複数の織元で織られていましたが、昭和12年からの原綿事情の悪化により全ての織元は廃業を余儀なくされました（戦後はわずかに1軒が平成3年まで小さな規模で操業を続けました）。今年はなかの生誕200年の節目の年にあたります。これを記念して戦前に織られた様々な文様の赤穂緞通計40点余（途中一部展示替えを行います）のほか明治～昭和前期に使用されていた図面や関連資料などを展示、近年の調査も踏まえて赤穂緞通の歴史と魅力を紹介します。



赤穂緞通
八藤に桐桔梗唐草文
明治時代後期 永應寺蔵



赤穂緞通
連珠門に狛犬文
大正時代頃 高木華子氏蔵



赤穂緞通
牡丹唐草文（絹製・3畳敷）
明治末～大正時代 当館蔵
前期展示：11月18～12月19日



赤穂緞通
鳳凰に花鳥唐草文（3畳敷）
明治末～大正時代（株）MUTSUKI WORKS蔵
後期展示：12月21～1月23日



赤穂緞通図面 大正～昭和初期 当館蔵（岡崎佳世氏寄贈）



赤穂緞通染料 大正～昭和初期 当館蔵（岡崎佳世氏寄贈）



由多加織 十字唐草文 明治時代後期 当館蔵

交通のご案内

- ◆ JR播州赤穂駅より南へ徒歩約15分
- ◆ JR相生駅より車約25分
- ◆ 山陽自動車道赤穂インターより車約10分
- ◆ 車でお越しの方は、当館北隣の赤穂城跡駐車場（無料）のご利用が便利です。
- ◆ 12月14日は赤穂義士祭のため、市街地は車での通行が規制されます。当日は車での来館はお控えください。

